



浜水高

図書館だより

世界初の缶コーヒーをつくった三浦義武

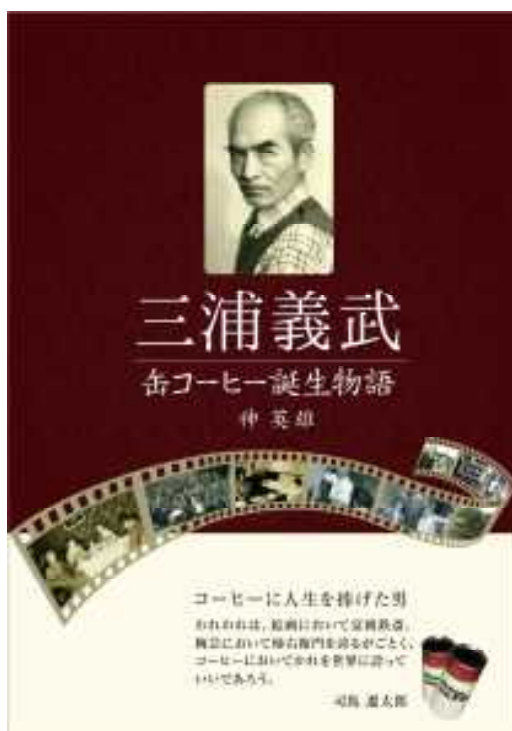
浜田市立第四中学校のある美川地区から三隅に向かう途中に井野という地区があります。井野は明治の初めまで広島県の加計隅屋というたたら製鉄の業者が砂鉄を採取した場所です。その井野地区で、世界で初めて缶コーヒーをつくった三浦義武さん（1899 - 1980）が生まれ育ちました。義武さんのお父さんは島根県議会議員をつとめたことのある人です。義武さんは浜田中学校（現在の浜田高校）を卒業したあと早稲田大学法科（法学部）に進学しますが、法律のことよりも、ビタミンなど理系のことに興味をもつようになりました。そして理化学研究所にビタミン B1 を発見した鈴木梅太郎博士を訪ねています。その後、お茶やコーヒーのことを研究するようになり、三浦茶園というお茶屋さんを始めました。コーヒーの研究にはますます熱が入り、ついには銀座に「ヨシタケ」という店を開店します。

太平洋戦争の最中の 1942 年には井野に帰郷して、井野村長に就任しました。1951 年には浜田市紺屋町に「喫茶ヨシタケ」を開店しました。そしてコーヒー牛乳を考案しました。1962 年には作家の司馬遼太郎さんとの交流が始まりました。

義武さんは瓶入りのコーヒーを造りましたが、これが缶詰にできないものかと考え、1965 年に缶コーヒーの制作に成功しました。缶コーヒーは三浦という姓から「ミラ・コーヒー」と命名しました。

コーヒーを愛し、コーヒー研究に生涯をささげた三浦義武さんは、1980 年に 80 歳の生涯を閉じました。

※『三浦義武-缶コーヒー誕生物語（神英雄著）』は図書館に置いてあります。



ニュースを読む

アメリカ中間選挙とは…現職大統領の勢いを占う試金石

(10.26 読売新聞)

アメリカの中間選挙が11月8日に行われる。その仕組みや意味をまとめた。

《いつ行われる?》

中間選挙は、4年ごとに行われる大統領選挙の中間にあたる年に実施し、上下両院の議員、州知事、地方議員などを一斉に決める。連邦法の規定で「11月第1月曜日の次の火曜日」に行うことが決まっている。大統領選の日程も同じ規定になっている。

今回は11月8日が投開票日となり、米東部時間18時以降に各州で順次、投票が終了する。サマータイムが11月2日に終了するため、日本との時差は14時間。つまり、日本時間の9日朝から開票が始まることになる。

《与党敗北なら、大統領の求心力が低下》

大統領の任期は4年間で、最初の2年間の政権運営に対する中間的な審判を下す選挙として位置付けられる。与党が敗北すれば議会運営が難しくなり、大統領の求心力低下も免れない。2年後の大統領選へも大きな影響があり、現職の勢いを占う試金石とされている。

《下院は全435議席、上院は35議席》

任期2年の下院は、全議席（定数435）が改選される。任期6年の上院は、2年ごとに定数100のうち約3分の1ずつが改選される。今回の中間選挙では、補欠選挙の1議席を含めて計35議席が争われる。

下院の州ごとの議席数は、全50州にまず1議席を割り当てた後、残りの385議席を人口に応じて配分する。最多のカリフォルニア州は52議席で、テキサス州38議席、フロリダ州28議席などと続く。アラスカ州やデラウェア州など6州は1議席だ。小さな選挙区も多く、資金力のない新人でも比較的、挑戦しやすいとされる。

上院は、州全体が一つの選挙区。人口規模にかかわらず、各州に2議席が配分される。補選が実施されるケースを除き、通常は中間選挙が行われる州で改選されるのは1議席だ。下院議員からのくらし替え組など、知名度や資金力のある人が候補者となる場合が多いとされ、テレビ司会者としても知られる医師や元プロアメリカンフットボール選手らが立候補している。

殻持つタコ全ゲノム解析 アオイガイの謎解明へ 島根大隠岐臨海実験所

(11.11 山陰中央新報)

タコ的一种だが殻を持つ「アオイガイ」の全ての遺伝情報(ゲノム)を網羅的に調べる全ゲノム解析に、島根大隠岐臨海実験所(島根県隠岐の島町加茂)の吉田真明准教授(40)＝進化生物学＝らの研究チームが成功した。希少で謎の多いタコの進化過程や生態解明に役立つという。

アオイガイは捕獲数が少なく吉田准教授は、近海で定置網を営む吉田水産(隠岐の島町北方)の吉田稔社長(60)の協力で、網に入った際に生け捕りにする態勢を整えている。

2019年に吉田水産の定置網で捕獲された個体の一部を国立遺伝学研究所(静岡県)で解析。結果、ゲノムを担うDNAに含まれる塩基対は約10億あり、タコの仲間では最少と分かった。

タコの祖先は殻を持っていたとみられ、アオイガイも他のタコと同様、一度は殻がなくなったものの、進化の過程で腕から殻を作るようになったと考えられてきた。ゲノム解析では、この仮説を裏付ける遺伝子の変化が見つかった。

古代に絶滅したアンモナイトと同じ遺伝子も確認。全体的には、体の一部がマント状になって水中を漂うムラサキダコに近い種類だと分かった。アオイガイは希少だが世界各地に分布。全ゲノム解析は外国の研究者にも役立つ情報となり、研究が進めば将来的にバイオテクノロジーの発展にも寄与するという。

吉田准教授は「遺伝子が発現する場所や変化を詳しく調べたい」と話す。ほかにも隠岐諸島でないと採取が難しい海の生物が多いと強調し、吉田社長と協力して今後も生態未解明の生物の研究に尽力するとしている。

物価高で「負担」73% 総合経済対策の評価は二分 朝日世論調査

(11.14 朝日新聞)

朝日新聞社は 12、13 の両日、全国世論調査（電話）を実施した。食料品や光熱費、ガソリン代などで値上げが続いていることを受け、生活への負担を感じるかどうかを質問したところ、「生活への負担を感じる」は 73%、「それほどでもない」は 27%だった。同じ質問を 2、3、4、10 月の調査で尋ねてきたが、「負担を感じる」は過去最高となった。電気・ガス料金の負担軽減策を柱とする政府の総合経済対策の評価も尋ねた。「大いに評価する」3%、「ある程度評価する」43%で「評価する」は合わせて 46%。「あまり評価しない」38%、「まったく評価しない」12%で「評価しない」は合わせて 50%と拮抗（きっこう）する結果となった。

職業別で「評価する」をみると、「主婦層」が 54%と多かった。男女別の「評価する」は「男性」47%、「女性」46%。年代別の「評価する」は「40 代」と「50 代」が 52%と多かった。